

様式（第3条関係）

## 東京都とうきょうすくわくプログラム推進事業活動報告書

所在地	東京都渋谷区渋谷 1-18-9
園名	ベネッセ 美竹の丘保育園

### 1. 活動のテーマ

<テーマ>

自然

東京都渋谷区という都会の中で、渋谷区1丁目開発中の工事の中の保育園です。その中で、公園もインクルーシブルに新しくするとのことので木の伐採がありました。その際の木を子どもたちの遊びの中でいかせていけないかと渋谷区まちづくりご担当者さまに相談をし、昔から渋谷の土地で生きてきた木に触れたり遊美に取り入れられたりできないか考えました。また、普段から遊んでいる積木やおもちゃも木でできていることから、さらに木の玩具や素材を取り入れ、自然のぬくもりを感じながらあそべる環境を整えたいと考え、職員間で話し合いを行いました。

自然環境として代々木公園で遊ぶ機会もある中で、日常的に触れる木や木のぬくもりを遊びや生活の中でより身近に感じてほしいという願いから、このテーマを設定しました。

### 2. 活動スケジュール

1. 講師を招いた木育活動として、キンダークラス（3・4・5歳児異年齢）で、箸づくり、乳児クラスではカスタネットづくりを行っていきました。作るだけではなく、実際に箸のマナーや箸袋を作ったりと実際の生活安日の中で使うことで木への親しみや愛着を育むことを大切にしていきました。また、家庭で継続して使えるように保護者へ取り組みを伝え、家庭と連携しながら木に触れる機会を広げていきました。
2. 日々の保育の中では、木製の積木や玩具を増やすことで遊びが広がり、子どもたちが主体的にかかわる姿が見られました。特に幼児クラスのキンダーでは、積木を高く積み上げタワーのように構成するなど、試行錯誤しながら遊びを発展させる姿が増えていきました。

### 3. 活動のために準備した素材、道具及び環境の設定

積木・引き戸ポストボックス・ネフスピール・木の車・ドリオ・カプラや積み木でタワーにする台など

ケヤキの木での箸づくり・カスタネットづくり

代々木公園でどんぐりや木を探して制作や楽器作り

### 4. 探究活動の実践

#### <活動の内容>

木育の取り組みとして、子どもたちが木の素材に触れながら主体的に遊びを広げられるよう、保育に木製玩具や自然素材を取り入れました。積木やネフスピール、カプラなどの公正遊びでは、子どもたちが自ら試したり組み合わせたりしながら遊びを展開し、形や高さ、バランスを考えながら試行錯誤する姿が見られました。特に幼児クラスのキンダーでは、積木のタワーのように構成するなど、目的をもって遊びを発展させていきました。

講師を招いた木育活動では、キンダークラスはケヤキの木を使った箸づくり、乳児クラスはカスタネット作りを行いました。自分で作ったものを実際に生活や遊びの中で使うことで木の素材への関心や愛着が深まっていきました（家庭で箸を積極的に使う姿が見られたと聞いています）。乳児クラスでは、カスタネットを使った音遊びを楽しみながら、音の違いやリズムを感じる姿が見られ、木の音や感触に親しむ経験につながっていきました（家庭でも音楽に合わせて遊んでいると聞いています）。さらに、代々木公園でどんぐりや木の枝を拾い、制作や遊びに取り入れることで自然と遊びがつながっていきました。

子どもたちの「やってみたい」という思いを大切にしながら、遊びや生活の中で探究的にかかわる経験を積み重ねていきました。

#### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

木製玩具や自然素材を取り入れた環境の中で、子どもたちは自ら素材にかかわり、遊びを広げていく姿が見られました。積木やネフスピールを用いたあそびでは、「もっと高くしたい」「どうしたら倒れないかな」と試行錯誤しながら取り組み、興味関心を高めていくように一緒に考えていきました。「ここ押さえて」「次これね」などと友だちと協力する姿があり、遊びを通してかかわりが深まっていきました。

乳児クラスでは、カスタネットづくりを通して、「とんとん、いいおと」「もういっかい」など繰り返し楽しむ姿や積木を友だちが積んでいると一緒に楽しんだり、ネフスピールでいろいろな形に挑戦したりする姿が見られ、保育者と一緒に楽しむ姿が見られました。

## 5. 振り返り

### <振り返りによって得た職員の気づき>

木育の取り組みを通して、木という身近な素材であっても、環境の整え方やかかわり方によって子どもの遊びや探究の深まりが大きく変わることになりました。

積木や構成遊びでは、子どもたちが自ら考え、試行錯誤を重ねる姿が多くみられ、保育者が先回りして答えを出すのではなく、本物志向や発見を支えるかかわりの大切さを改めて実感しました。

また、講師を招いた箸づくりやカスタネットづくりで「作る」だけではなく、「使う」ことにつながることで、生活と遊びが結びつき、子どもの意欲がより深まることを感じました。今回の実践を通して、子どもの「やってみよう」という思いを中心にとらえ、環境とかかわりを丁寧に整えることが、主体的で探究的な育ちにつながることを職員間で共有することができました。今後も、子どもの姿から保育を見直し、遊びが生活につながる環境づくりを継続していきます。

